

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

学校名【福島県立たむら支援学校】

1 実践テーマ	I・II・(III)・IV・(V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	高等部生徒 第1学年 14名、第2学年 13名、第3学年 10名 合計 37名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (船引高等学校とのフライングディスク交流会) (ポッチャ講習会) ③ その他 (総合的な探求の時間) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	【総合的な探求の時間】 ・オリンピック・パラリンピック競技大会についての学習をとおして、競技種目や出場国が分かり、大会への関心を高めることができる。 ・ポッチャの技術や戦術を学び、試合において仲間と話し合ったり競い合ったりすることをとおしてスポーツの魅力を味わうことができる。 【船引高等学校との合同体育祭】 ・スポーツやレクリエーションをとおして、生徒同士の交流やクラスの団結を深め、自ら主体的に運動に親しむ資質や能力を育成する。 ・船引高校との交流をとおして、他者理解及び共生社会についての理解を深めることができる。 【船引高等学校とのフライングディスク交流学習】 ・船引高等学校の生徒との交流をとおして、両校生徒の相互理解を図る。 ・フライングディスク競技の活動をとおして、障がい者スポーツの意義と共生社会についての一助とする。 【ポッチャ講習会】 ・パラリンピック競技大会や障がい者スポーツの理解を深め、オリンピック・パラリンピック競技大会への関心を高めることができる。 ・パラリンピック競技大会種目であるポッチャ競技の体験をとおして、競技特有の技術や戦術を学び、スポーツを楽しむ心を育むことができる。

5 取組内容

【総合的な探究の時間】



- 各学級において、生徒の実態に応じて題材を設定し実践した。
- 「ボッチャを体験しよう」では、ボッチャの試合の進め方や技術、戦術について学習した。
- 「オリパラを調べよう」では、オリンピック・パラリンピック競技大会に関することについて、パソコンやタブレットを使って調べ学習を行った。

【合同体育祭】



- 船引高等学校全校生徒312名と本校高等部生徒37名が、合同体育祭をとおしてスポーツ交流学習を行った。
- 「フライングディスク」、「長縄跳び」、「綱引き」、「バケツリレー」「選抜リレー」の5種目を選定して実施した。
- 高等部生徒がデザインした揃いのTシャツを着て大会に参加するとともに、Tシャツコンテストにも応募した。

【船引高等学校とのフライングディスク交流学習】



- 船引高等学校生徒98名と本校高等部生徒37名が、フライングディスクをとおしてスポーツ交流学習を行った。
- フライングディスクの持ち方や投げ方、ルールについて学習した。
- 船引高等学校生徒が12チーム、本校高等部生徒が6チームに分かれ、フライングディスク対抗戦を行った。

	<p>【ボッチャ講習会】</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・福島県障がい者スポーツ協会の増子恵美氏、丸山内雄大氏による講習会を実施。 ・パラリンピック競技大会について及びパラリンピック競技大会種目である「ボッチャ競技」について学習した。 ・ボッチャ競技のルールや試合の進め方、戦術等について実演を交えながら指導していただき、実践をとしてボッチャ競技の魅力に触れ、対抗戦を楽しむ姿が見られた。 ・12チームに分かれ、ボッチャ対抗戦を行った。優勝チームと講師チームのエキシビジョンマッチを行った。 ・講演では、夢をもつことの大切さについてお話をいただいた。また、スポーツをとおして得られるものとして①挨拶や返事などの礼儀、②時間を守ること、③ルールを守ること、④仲間と協力することなどの大切さについてお話をいただいた。
<p>6 主な成果</p>	<p>【総合的な探究の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック競技大会の歴史や開催国、競技種目等について理解することができた。 ・大会に出場する国や地域、正式種目のルール等が分かり、オリンピック・パラリンピック競技大会への関心を高めることができた。 <p>【船引高等学校との合同体育祭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両校の生徒にとって、互いを知る良い機会になった。 ・障がいの有無にかかわらず、両校生徒が運動を楽しむことができるよう生徒会が中心となり種目を選定したことで、各種目とも、真剣勝負をとおして、スポーツの楽しさや喜びを共有することができた。 <p>【船引高等学校とのフライングディスク交流学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両校の生徒にとって、互いを知る良い機会になった。 ・対抗戦の運営では、ディスクを渡す係や記録係、ディスクを回収する係を生徒同士で行うことにより、両校の生徒同士の自然なやりとりの中で相手を思いやったり、協力したりする姿が見られた。 ・スポーツ交流をとおして、障がいの有無にかかわらず、互いに認め合うことの大切さを感じることができた。 <p>【ボッチャ講習会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚教材を活用した学習をとおして、オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高めることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・実践形式での試合をとおして、仲間と共にスポーツをする楽しさや相手と競い合うスポーツの魅力に触れることができた。 ・講演において、「夢をもつことの大切さ」についてお話をいただいたことで、自分について見つめ直したり、目標達成に向けて意欲を高めたりする機会となった。 ・パラリンピック競技大会種目であるボッチャの体験学習や、車椅子バスケットボールの実演見学をとおして、パラリンピック競技大会をより身近に感じることができた。 ・生徒の感想から、「パラリンピック大会のボッチャを見たい。」や「体育の授業でやってみたい。」など、パラリンピック競技大会やユニバーサルスポーツへの関心を高めることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって有意義な学習や経験を積むことができるように、生徒に身につけたい力を具体的に絞り、題材設定や学習内容の検討を行い、講師の選定や、学習計画の立案を行った。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック等の競技者による講演及び実技指導も検討したが、予算の都合上断念せざるを得なかった。 ・オリンピック・パラリンピックへの興味関心をもつことについては、一定の効果が得られたが、持続するための学習を他の授業や教育活動において連続的かつ継続的に展開することが難しかった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・船引高等学校とのフライングディスク交流学习については、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築に繋がる効果的な取り組みであったことから、次年度以降も学部行事として設定し、継続的に実践していく。 ・今年度学習した内容を踏まえ、保健体育の授業において、パラリンピック競技大会の種目を設定していく。また、大会期間中、保健の授業において、オリンピック・パラリンピック競技大会の内容を取り扱う。 ・各教科及び総合的な探究の時間等においても、継続的に学習を行うとともに、大会終了後も経済効果や社会への影響等についても触れながら指導していく。